

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2 年次生 井上由美子

はじめに

2024年3月11日から3月20日の間、本学薬学部におけるオーストラリア薬学語学研修に参加しました。ニューサウスウェールズ州の TAFE という、職業訓練学校にて英語、薬学について学びました。

授業

基本的には午前には現地講師による英語の授業を、午後からはオーストラリアの薬学についての講義を受講しました。現地の先生方と、本学の学生とともに様々な事柄について学びました。

English Class/Pharmacy class

英語の授業では、オーストラリアの生活や文化について、スライドやワークシートを用いて授業を受けました。なるべく学生同士でも英語で会話することを心がけながらグループで話あったり、日本料理のレシピを英語で書いてみたりしました。すべての授業において受け身の姿勢が少なく、参加型の授業であったと感じています。また、speaking, writing, listening の全てが総動員されたような授業であり、これまで日本で学んだ英語を自然にアウトプットし、試すことが出来るような環境でした。

また、Pharmacy Class では現地の薬学事情について英語で授業を受けました。日本のそれと比較することで今まで以上に薬学について多角的に考える事が出来たように思います。また、オーストラリアの気候や風土、人種等からどのような薬が使われるのか、またどのような制度があるのかなどを学んだり考えたりすることが楽しいと感じました。



ホームステイ体験

私はオーストラリアのあるご家庭に10日間ホームステイをさせていただきました。TAFEまで少し距離があるところのおうちでしたのでホストマザーに毎日車で送迎していただき、とても助かりました。日々の生活も不自由なく一緒に生活でき、英語が未熟な私たちにも優しく接してくれました。本当に感謝してもしきれないほどです。現地に着くまではやはり緊張していましたが、暖かく迎えてくださったおかげでオーストラリアにまた行きたいと思うことが出来ました。週末は近くのマーケットにいたり、映画を一緒に見たり、近くのカフェに行ったりと、多くの思い出を作ることが出来ました。



渡航前後の自身の変化について

今回、私は渡航を直感で決めました。ただ、後から振り返ると、海外に行った経験が無かった事から来る好奇心や、自分自身の常識や価値観についてより深く考えるためのきっかけとなる出来事を求めていたこと、などが細かな理由に当たるのかもしれません。また私は長い間「英語は勉強するもの」と思っていました。試験のテストの点数さえとればよい、文法を間違えなければよいという考えを持つと同時に、英語に対してとてもつまらなさを感じていました。

そして、いざ海外に行ってみると教科書で習った英語は必ずしも正解でないことを目の当たりにしました。ほんの一例ですが英語を学ぶと表現するのに「study」という単語は使わないようです。日本の英語の授業で “I want to study English more.” という表現を使っていたのですが、本当は少し意味が違うのではないかと今は思います。たったこれだけのことではありますが、私にとっては大きな学びでした。そして、どうしてもホストファミリーに伝えることが難しいときは、翻訳アプリを使っていまし

たが、細かなニュアンスというのは翻訳機では伝わらないということも学びました。これらのことから、英語を自分の頭で理解して学ぶということ、そして外国人と直に話すということの偉大さを改めて実感しました。そして、言葉の壁というのは想像以上に大きいものであるという印象も抱きました。しかしながら、人とのコミュニケーションというのは言葉だけではないとも考えます。私がオーストラリアに行って感じたのは、「機嫌のいい人が多い」ということです。そしてそれは、平日と休日のメリハリであったり、家族との時間やスキンシップを大切にするという習慣がそうしているのではないかと思います。言葉が完全に通じなくても学ぶことは多くあると感じられる瞬間が多くあったのも思い出深いです。

これからの自分

想像しているよりも、自分を変えることは難しいです。私は今回の渡航を通して、自分の中で変化したことを明確に述べる事ができません。「自分を変える」ということが世間ではしばしば良いことであるとされ、そうありたいと願いますが、やはり自分自身では気づきにくいものであると思います。しかし、そのような私もこの報告書を読み返すと、やはり私の中の「何か」は変わっているのかも知れないな、と感じます。その「何か」をあえて言語化する必要はないと思いますが、自分の中に小さな変化が気づかないうちに蓄積されていることを実感しています。この研修に参加出来たことに感謝し、得た学びを次につなげていければと思います。

そして、これからは自分が「機嫌良く」いられるように、そして周りにも「機嫌良く」なってもらえるような人間になっていければよいなと思います。